

○滿蒙探檢四十年

アーナート手記 有富光門譯

四六版三六六頁 雄辯會講談社發行 定價一圓五十錢

北滿の地質學者としてその名を聞くこと久しきアーネルトの四十年の探檢を記述したもの、勿論卑俗的で断片的で、之により系統的知識を獲んとするのは間違ひであるが、その代り他の何人にも期待出来ぬ面白さがある。火山内に修道院のある烏雲和爾冬吉(ウニホルドンギー)火山など最も紹介者には面白かつた。滿鐵調査所の邦人地質家の名を二ヶ所で見つたのも懐しかった。新年の徒然のまゝなどに一讀されるのもよからうと思ふ。譯文は流麗、たゞ數ヶ所で地層の露出する断崖を「断層」と譯されてゐるのは、この本に限らず段々普通となりつゝあるが、しきことである。(尾山生)

○日本地理圖集

西田與四郎 帷子二郎 共著

昭和九年十月發行 東洋圖書株式會社 定價三圓

奈良の女子高等師範で著者等が教鞭に使用さるゝ日本の地圖の多くのケースを集めたもので、地形・交通・産業・聚落等の珍らしいカット凡二百種に達し、各それを造つた著者の名をあげてあるのもうれしい、菊版二〇八頁で手頃の本である。

(藤田)

○滿洲帝國新行政區

來る十二月一日より實施さるべき滿洲國の新行政區は左の十一省である。

- 奉天省 省公署 奉天市 二十八縣(遼陽 遼中 本溪 撫順 瀋陽 鐵嶺 開原 新民 法庫 康平 海城 營口 蓋平 復 興京 清原 西豐 昌圖 梨樹 雙山 遼源 海龍 輝南 金川 柳河 東豐 西安 濛江)
- 吉林省 省公署 吉林市 十六縣(長春 雙陽 伊通 德惠 農安 長嶺 乾安 扶餘 永吉 舒蘭 額穆 敦化 樺甸 磐石 榆樹 懷德)
- 龍江省 省公署 齊々哈爾市 廿五縣(龍江 泰來 泰康 景星 甘南 富祜 林甸 依安 訥河 克山 明水 克東 拜泉 德都 嫩江 龍鎮 通北 大賚 突泉 安廣 鎮東 開通 瞻榆 洮南 洮安)
- 熱河省 省公署 承德 十二縣(承德 灤平 豐寧 隆化 平泉 凌源 凌南 青龍 寧城 赤峰 開場 建平)
- 濱江省 省公署 哈爾濱市 廿七縣(阿城 賓 雙城 五常 珠河 葦河 延壽 東寧 寧安 穆稜 密山 虎林 呼蘭 巴彥 木蘭 肇東 肇州 蘭西 綏化 東興 安遠 青崗 望奎 慶城 鐵驢 綏稜 海倫)
- 錦州省 省公署 錦縣 十二縣(錦 錦西 興城 綏中 義 北鎮 磐山 臺安 黑山 彰武 朝陽 阜新)
- 安東省 省公署 安東 十一縣(安東 鳳城 岫巖 莊河 寬甸 桓仁 通化 輯安 臨江 長白 撫松)

の如く總計七百八十三萬九千人に上る。

米 國	七、九八八	加奈陀	三、一〇〇人
メキシコ	二、五〇〇	ペルー	五、七〇〇
チリ	二、七〇〇	ブラジル	八、一〇〇
アルゼンチン	六、〇〇〇	コロンビヤ	一、〇〇〇
ベネスエラ	二、八二五	中 米	九、四〇〇
西 印 度	六、四〇〇	ドイッ	一、八〇〇
佛 國	一、七〇〇	英 國	八、〇〇〇
南洋蘭領	三、五〇〇	蘭領東印度	一、三三、五〇〇
英領ボルネオ	七、五〇〇	英領マレイ	一、七九、五〇〇
シヤム	二、五〇〇、〇〇〇	印 度	一、五〇〇、〇〇〇
佛領印度支那	六、一四七	ビルマ	一、三、五〇〇
朝 鮮	四、一〇〇	臺 灣	四、九、九〇〇
日 本	一〇、〇七五	南アフリカ	四、四〇〇
ニュージーランド	二、八五〇	オースト	一、五、五〇〇
印度洋諸島	五、〇〇〇	ラリヤ	二、〇、〇〇〇
太平洋各小島	一、〇〇〇	ヒリツピン	二、〇、〇〇〇
ソウイェト	二、五、五〇〇	ハワイ	二、七、七〇〇
トルコ	七、〇〇〇	丁 抹	六、〇〇〇
伊太利	二、三〇〇	スイス	一、四九
ポーランド	一、三〇〇	チェッコ	二、五五〇
ポルトガル	一、〇〇〇	オランダ	八〇〇
香 港	八、五、六四五	タヒチ	五、〇〇〇
		澳 門	二、九、八七五

雜 報

合 計

七、八三、八九五

これによると、支那人は全世界に分布して生活をいとなんでゐることがよくわかる。

○京都東山森林の被害

九月廿一日の暴風で大阪の慘害につぐ被害として世の注目をひいた京都の東山は南の伏見稻荷山から始まつて上賀茂の奥まで長十五軒、東山三十六峰を縦断して臨風が若狭灣にぬけた、め清水・銀閣寺・南禪寺・智恩院・阿彌陀ヶ峰・修學院・上賀茂・船岡山などの翠巒は美觀上から全く壊滅した、全倒四萬木、損害約二千萬圓と稱される。名木で惜しいのは京都御苑内の紫宸殿正面通り丸山にあつた東山天皇御手植の松の木、嵯峨渡月橋畔道するべの松などをはじめ、清水寺の舞臺から見た音羽瀧の山は檜と椎の大樹林が殆ど根こそぎで丸坊主になり、南禪寺境内の老松が全壊して山門が疏水から丸見えになり、智恩院裏山の松や椎も夥たしく吹き倒され、高臺寺から智恩院境内の老樹の倒れたのが多いうちに、丸山公園の名木垂枝櫻の助かつたのは何よりである。伏見稻荷山の松林も全滅したが、銀閣寺の翠巒も大半滅び、老杉もこけた。それから北では修學院離宮の裏山、老松の大森林が全滅したと同時に、船岡山の老松も南側は全滅して、あとに赤い杭をうつたやうに赤松の幹がさびしく残つた。中にも上賀茂の森は老杉算を亂して倒壊し、國寶にも損害を與へ、下賀茂の糺の森もみるかげなきまでに倒れた。すべて南受けの勝景地で樹木のことによく茂つてゐた

四七五

七九

ところが撰りに撰つて大破した。

二十八日午前十一時大朝プスモス機から宮内寫眞部員が之をみ且つうつしたが、風の通つた途は南東から北西へかけて一直線に貫いて幅二百メートル平均に達したらしい、猶同時に山科盆地では醍醐の三寶院にあつた風がきつ、上醍醐も森林がたほれ、下醍醐は純淨觀がつぶれた、有名な泉石はそのまゝであるが立木は倒壊した、桂離宮もその荒れ方は甚しかつたといふことである。

東山の美觀をそこねた颯風の外に、山科から大津へぬけた風も被害は大きく、桂から西の方では攝津平野の北限の高地斜面に多い松や雑木が、西南からの風に薙ぎ倒された姿が眼についた。東山の風致をもとの姿に取りかへすことは最短六十年もかゝることではあらうが、差し當り山の掃除をして幼樹を植栽するに止めるであらう、それでも數年もたてば大凡の景致は復舊されるに違ひない、宇治電が嘗て水力電氣發電所の上に、山を赤くして鐵管を暴露してゐたがそれも十年後の今日森林にかくれて見えなくなつたことを思ひあはして、清水でも賀茂でも山の姿を相當な外見に取りかへすことはさう永い年月を要しないであらうと考へる。(F)

○九月二十一日暴風雨前後の大坂市場相場

大阪商工會議所の調査發表であるが、記載的事件として、暴風雨のために諸物價値の變動したことを記しておくことにした。

品名	災前 三日間平均	災後 三日間平均	割合
玄米(石)	三七・六	二九・〇	〇・七〇
白米六〇キロ	一一・〇	一三・〇	〇・一〇〇
裸麥(石)	一五・五	一六・〇	〇・〇五〇
小麥(石)	一五・七	一五・三	—
醬油(石)	三三・七	三三・七	—
味噌十貫	六・〇	六・〇	—
白砂糖一〇〇斤	三三・〇	三三・〇	〇・〇五〇
牛肉百目	〇・五	〇・五	—
鶏卵百個	三・六	三・六	〇・一〇〇
小麥粉(四九ポンド)	三・五	三・〇	〇・四〇〇
伊勢澤鹿一挺	八・〇〇	一〇・〇〇	〇・三〇〇
建築材			
トタン板一枚	一一・〇	一八・〇	〇・六〇〇
薄銅板(十貫)	八・一〇	九・八〇	〇・三〇〇
洋釘(二・五吋)	八・四〇	九・五〇	〇・二〇〇
煉瓦(百個)	三・〇〇	三・〇〇	—
セメント一椀	四・二〇	四・四〇	—
板硝子(一函)	九・三	一一・五〇	〇・三〇〇
杉丸太(尺ノ)	五・七〇	六・五	〇・一〇〇
松角材(尺ノ)	九・三〇	一〇・七	〇・一三〇
疊表(一〇枚)	一六・〇〇	一六・一〇	〇・一〇〇

瓦(一、〇〇〇枚) 四五.00 九五.00 一、一〇〇

燃 料

木炭(八貫入) 一、六五 一、八五 〇、一〇〇

石炭(一萬斤) 九四.八〇 九四.八〇 —

ガソリン(一箱) 五、五〇 五、五〇 —

石油(同) 五、一〇 五、一〇 —

衣 料

蒲團綿(貫) 三、四〇 三、四〇 —

木綿生地(三貫) 〇、五五 〇、五五 〇、〇〇〇

綿ネル(一ヤード) 〇、二二五 〇、二二五 〇、〇一〇

瓦の價は京都では一枚八錢のものが其翌日三十錢にもなつた、暴利取締に關する警察の眼がよく光つたので、さうした瓦の暴騰は三日目にはなくなつたが、京阪神を通じての瓦の被害は最も甚だしかつたから十一割から騰貴したのは、致方がない現象で、一般建築材のうちトタン板の暴騰も、その被害が瓦について多かつた證左になる。ウドンを食ふ人が多いために小麦粉が四割八分、澤庵が二割五分も上つたことは大阪に於ける中流以下の被害の大であつた證左ともみられるが食料品を通じてあまりに價が上つてゐないことは注目すべきよき傾向とみられる。

○米國西北部農作

本年度米國小麦の收穫豫想高は四億九千萬ブツセルである。これは例年の七、八億萬ブツセルに比して非常な凶作で、ロッキード以東中部六州が稀有の旱魃に

見舞はれた結果である。然るに西北部三州、ワシントン・オレゴン・アイダボの小麥は六千七百六十萬ブツセルで、幸に平年作であるから、麥價暴騰の御蔭で當方面農家は五千萬弗の收入があるといつて喜んでゐる。例年西北地方は小麦の生産過剰に苦み政府は買上げや輸出補助をやつてきたので、昨年東洋方面へ緊急輸出のため二千六百五十萬ブツセルを買上げ大部分を輸出してしまつたが、猶五百萬ブツセルを有し不日小麦及小麦粉として輸出する手筈で、本年の西北産の小麥はパナマ經由で東部へ輸出される、かくて米國を通じて三億三千万からの小麦の滞貨も大に減じて一億三千万ブツセルに減ずるであらう。

小麦につぐ果實も良作で、ワシントン州の梨は例年の二倍にうれる、林檎も同様で農家はホクホクしてゐる。シャトル近傍の日本人農家は、主として蔬菜を栽培してゐる、數年來蔬菜も生産過剰のために市價が下落して不況であつたが、本年は他方の凶作で、蔬菜類の主要作物たる豆類の市價騰貴のため邦人農家の大部分は一舉にして永年の損失を償ふ程度の利益を得たといふことである。

○五倍子

五倍子は古くから漢藥として用ひられ現在は辟藥の外、染色、インキ製造、鞣皮工業、没食子酸、寫眞現像藥等の原料となり、其需要は年と共に加はるのであるが、本邦の産は極めて少く昭和元年千萬圓に達したが最近は五、六萬圓にすぎず、朝鮮産も一萬二千圓程度である、然るに單寧の

原料としての輸入は年々百八十萬圓にも上るのである、之を調べてみるとこの虫はフシノキ又はヌルデの葉に生ずる蟲癭で、葉の耳に出来る耳フシ、小葉の中肋脈上に出来る花フシの二大別がある、この外に枝端に出来る枝フシもあるが耳フシの單寧含有率は六二—七三%で最上である、支那産五倍子と同じものらしい。

五倍子の出来るヌルデは内地北海道朝鮮の各地山野に自生し、岡山、愛媛、山口、和歌山、兵庫、島根、鳥取、廣島、宮崎、徳島に多いからまづ中國が本場である、朝鮮は京畿道江南に多い、往年岡山縣で大面積にヌルデを植栽したが、五倍子はつかなくつた、中間寄生の存在を無視した結果であつた、元來このフシは蟲癭の發生する九月下旬になると、その突起部がやぶれて、其中から有翅の蚜蟲がでる、全部雌である、八五〇から八三〇も出る、蚊の五分一にもたらぬ小蟲であるが、高木五六氏の飽くなき研究でこの蚜はその仔蟲をオホバチャウチンゴケといふ苔の上に産み落とされることわかつた、産み落された蟲は冬の間は體から白い練狀の分泌物を出して之に包まれてゐるが藪から汁液を吸収して成長し翌春四月、櫻の蕾む頃蛹となり、やがて花も綻びる頃有翅雌蟲となつて、ヌルデの幹に飛び、そこで四五頭の仔蟲を胎生

する、この仔蟲に雌雄があつて交尾すると雄は死し、雌はそのまゝ静止すること一ヶ月、そこで唯一頭の仔蟲を産む、この仔蟲は元氣よく幹から枝へ、枝から葉へと一氣に上り軟い葉の翼葉面に到達し、その口吻を組織にさしこむ、さうして位置をかへずに吸ひつゞけると其部分の葉が段々ふくれて、約一週間で蟲が全く葉の組織の中に包まれてしまふ蚜虫はこゝで單性生殖をなし仲間をふやすにつれて球形の凸起がやがて子供の拳位になる、やがてこれが破れて有翅蟲がとび出すといふことがわかつた、同時に人工増殖の方法も明になつたもしこれに成功すれば反當り十五圓乃至三十圓の收穫になるらしい。

○文檢地理科豫備試驗問題

昭和九年度
第六十一回

- 一、水河の分類をなし、且更新世水期の各種類の水河の分布をのべよ。
- 二、農作物の地方化と世界化とを實例を擧げて説述せよ。
- 三、ルーマニヤの一般文化景域を述べ且其の政治地理的諸問題を述べよ。
- 四、讃岐半島の地域性を述べよ。
- 五、南阿聯邦の地誌を述べよ。